

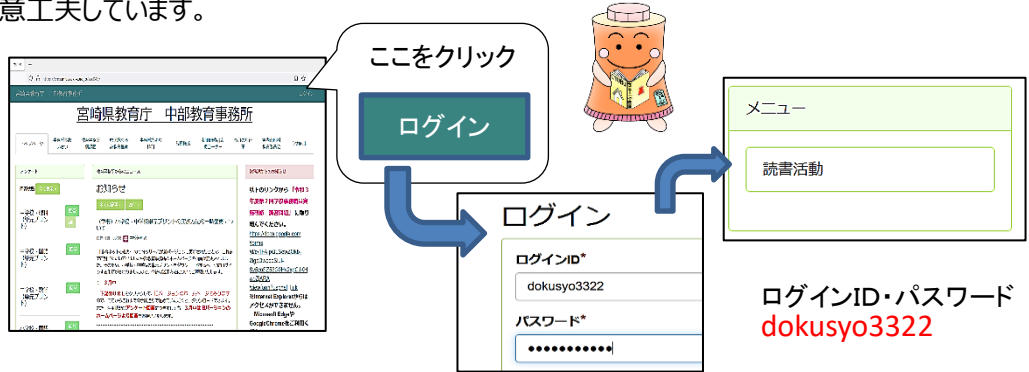
学校図書館を学びの中核に!!

中部教育事務所のホームページ「読書活動」のコーナーでは、今年度、管内4校の小・中学校の学校図書館を紹介しました。いずれの学校も学校図書館の3機能（読書センター・学習センター・情報センター）を生かしながら、児童生徒や職員の活用を図るため創意工夫しています。

情報活用能力の育成が求められている今、情報の宝庫である学校図書館のこれからの活用について見直してみませんか？

<お知らせ>

ホームページのリニューアルに伴い、「読書活動」コーナーの閲覧の仕方が変わりました。



ここをクリック

ログイン

メニュー

読書活動

ログインID・パスワード
dokusyo3322

『君』との距離

桜の蕾が膨らみ始め、いのちの息吹を感じる季節となりました。今年度の締めくくり、そして新たな年度に向けた準備段階となり、寂しさ、安堵、期待と不安、様々な感情の交錯する日々をお過ごしではないでしょうか。

中部教育事務所としては、学校訪問をはじめ、各分野の研修やサポート研修等を実施し、多くの方々へ御協力をいただきました。心より感謝申し上げます。参集型で実施できたものもあれば、オンラインへ変更したものの、実施できなかったものもありました。各学校や市町村教育委員会におかれましても、昨年度に引き続き、感染防止対策をはじめ様々な業務で苦慮されたことと思います。本当にお疲れ様でした。

毎日流れるコロナウイルス関連のニュースに憂鬱になっていたとき、ふとタナカサダユキさんの短歌が目にとまりました。2年前の作品ですので、ご存じの方も多と思います。

「しばらくは離れて暮らすコとロとナ つぎ逢ふ時は君といふ字に」

カタカナも漢字もある日本語ならではの表現に感じ入り、『コ+ロ+ナ=君』と思えるようになってから、ネガティブな考え方も少し変わりました。コロナ禍で「君（相手）」との距離をとって離れなくてはならないときこそ、相手を思いやり、励まし助け合う優しい心を育むことが私たち教育に携わる者の使命の一つなのではないか。そんなメッセージをこの歌から受け取りました。当たり前で日常が当たり前でなくなった今、お互いが「君（相手）」の気持ちを深く考え、感謝の気持ちをもちたいものです。次に逢えた時、近づけた時に少しでも成長できているように。

賛否両論ありましたが、今年度は夏冬オリンピック・パラリンピックが開催されました。その中で、夏のスケートボード岡本選手、冬のスノーボード岩淵選手の競技終了後に国を超えて多くの選手が駆け寄って称賛したシーンがありました。自分の限界にチャレンジする姿が感動を生み、互いにリスペクトする姿はとても素敵なお手本でした。しかし、今世界に目を向けると、信じ難い現状があります。平和の祭典がつかない絆が、次代を担う子どもたちの明るい未来へとつながることを願います。

最後に、今年度中部教育事務所主催の事業・研修等にご協力いただき、心より感謝申し上げますとともに、今後も市町村教育委員会と連携して積極的に学校を支援できるよう努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

中部教育事務所
副所長 山下 辰弥

